

平成18年度第5回尾張旭市交通問題懇話会

1 開催日時

平成19年3月23日（金）

開会 午前9時30分

閉会 午前11時50分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 302・303会議室

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

構成員：伊藤寛、小川智子、荻原善夫、奥野昌明、加藤桃代、荻谷勝、
田中悦子、服部正勝、林喜一、渡辺鎮夫、櫻井栄二、寺田千珠子、
日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

事務局：大橋邦弘、秋田誠、長江均、若杉博之、大和弘明

4 議題等

- (1) 第4回交通問題懇話会会議概要の確認について
- (2) 平成18年度公共交通試験運行について
- (3) マイクロバスについて
- (4) 平成19年度公共交通試験運行等について
- (5) その他

5 会議の要旨

部長あいさつ

本日は、大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。
第5回交通問題懇話会を開催いたします。

本日は、18年度の総括と本格運行にあわせて導入をしたいと考えている車両、そして19年度の予定などを項目として挙げておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(1) 第4回交通問題懇話会会議概要の確認について

(事務局)

第4回目の概要については、前回出席者に事前に送付させてもらい、確認をしていただいております。すでに市のホームページにおいて公表させていただいておりますが、その写しを本日配布させていただいておりますので、よろし

くお願いします。

(2) 平成18年度公共交通試験運行について

(事務局)

18年度の利用状況につきましては、8月7日のルート変更後、大幅に利用者数が増加しています。

19年1月にOD調査を実施しましたが、市役所を中心にした移動状況は以前と同じで、西ルートは労災病院、平子町長池上へ、南ルートは愛知医大への利用が多い状況です。また、ルートの見直しを行った結果、三郷南から愛知医大への行き来も新たに増えました。また、南西ルートでは南新町中畑への移動が多い結果が出ていますが、ここは高齢者が多く、以前タクシーチケットの利用を調べた時と同じ傾向を示しています。

18年9月に実施した利用者アンケートで利用者の属性を調べたところ、主にご利用されているのは主婦あるいは無職の60歳以上の女性であり、免許や他の交通手段をあまり持たない、いわゆる交通弱者の足として活用されています。また、前回のアンケートでは8割あった60歳以上の割合が7割となっており、若い方々にも利用者が広がってきています。

同じ利用者アンケートで満足度を調べた結果、前回よりも全体的に満足度は下がっていますが、運転手や料金については高評価を得ているように、依然として高い評価は得ています。やや下がった原因としては、年月が経つことにより、利用者の求めるサービス水準がより高くなったということがあるものと考えられます。

利用者を対象としたアンケートばかりではなく、一般のかたも対象としたアンケートの必要性も言われました。その一つとして、19年1月に市民3,000人を無作為に抽出して行ったまちづくりアンケートの集計結果の速報を見ますと、「バスなどの公共交通手段」についての満足度は14年度、16年度と比べて徐々に上がってきている状況がわかります。

またもう一つ、19年1月から3月にかけて公民館で聞き取り調査を行いました。尾張旭市公共交通を利用したことがない人のうちでも、9割以上のかたは、「将来必要なものと考えている」というようにお答えになってみえました。
・それから、18年度市議会の概要では、公共交通試験運行に関する質問状況は、6月議会で4項目、12月議会で3項目、3月議会では2項目について質問がありました。

(構成員)

OD調査の結果で、市役所から労災病院への矢印はあるが、逆の矢印はない

ので労災病院から市役所へはあまり利用がなかったのか。

(事務局)

もちろん利用はありましたが、特別に多いという結果は出ませんでしたので、労災病院から市役所への矢印は記載しませんでした。

(会長)

たとえ利用者の少ない細い線であっても、全ての利用者の流れを記載した方が、常時利用者があるということがわかります。

(構成員)

公民館での聞き取り調査は何を目的に実施したのか。我々の地元公民館で何かやろうとしても、元気な人しか来ることができない。

(事務局)

利用者のアンケートはすでに何度も実施していますが、その他のアンケートはあまり実施していませんので、利用していない人も含めて各地区での意見を収集するために実施したものであり、公民館へみえる手段を調べたものではありません。

(会長)

この結果を今後どのように活用していくかが問題です。

(顧問)

アンケート結果の中で、利用しない理由では「他の交通手段が便利」という意見が多くなってしまいます。それではこの結果を受けてどうすればいいかというと、解決策が見出せるわけでもありません。ですから、次の対応ができるような項目を設問として加えた方がよいと思います。バスを自動車と比べるものでもありませんし、自動車よりも便利にするのは不可能です。これからは、次のステップに行けるような回答を考えてアンケートを実施してください。

(構成員)

まちづくりアンケートは返送した人が必ずしも交通弱者ではないのではないのか。

(会長)

まちづくりアンケートは各地域、各年代ごとで抽出して実施していますが、

公民館での聞き取り調査は公民館利用者のみが対象となり、偏りすぎている感じがします。

(顧問)

アンケートで交通手段のない人がどのくらいバスを利用しているかを聞くのではなく、逆の発想で、自動車やバイクを持っている人でもバスを利用している人が増えているのかどうかを調べてみてもいいのではないのでしょうか。バス停の置かれた条件で調べたりしてもいいと思います。全体的に満足度は下がっても、ある地区へ行くと満足度が上がったりしているかもしれません。

(事務局)

先ほど満足度が下がっている理由について、次のさらなる要望が出てきているために下がったと説明させてもらいましたが、そのような解釈でよいのでしょうか。

(顧問)

利用者の見る目は少しずつシビアになってきます。厳しい目の中でも満足度が高いというのも一つの評価にはなると思います。

(会長)

ここでの満足度は平均値を示したものですので、前回と今回の回答の構成がどう変わったのかを吟味し、ある特定の意見がどのように変わったのかを調べるとよいと思います。今後の運営に生かせるようにしていきましょう。

(構成員)

利用者アンケートだけではなく、全ての人を対象に広く聞いていただいたということでは、公民館での聞き取り調査はいいことだと思っている。我々の団体でもシニアクラブの連合会でご無理を願ってアンケートに協力していただいた。

(構成員)

そのアンケートについては懇話会が関わってやっているかのように聞こえてきたが、事前に何も知らされていなかった。そうしたアンケートを配る時は、事前に懇話会で話をするなど、配慮が必要だったと思う。

(構成員)

我々のアンケート活動は、懇話会に諮って実施するというものでもないと思

う。

(顧問)

アンケートの趣旨などもはっきりさせておいた方がよかったですね。

(会長)

調査方法等に若干課題はありましたが、今後、それらの結果を有効に活用していただきたいと思います。

(構成員)

シニアのかたが対象だということだが、シニアクラブに入っていないところもあるので、全市域には配られていないのではないか。

(構成員)

現在 796 枚集まっている。本日集計結果を持ってきているので、必要であればお配りします。(会議室入口前で希望者に配布)

(3) マイクロバスについて

(事務局)

3月5日から10日までの6日間、西ルートをマイクロバスで無償試験運行を実施しました。

追加タクシーの発生はありませんでした。また、心配されていたダイヤの大幅な遅れもありませんでした。

試験運行中の利用者のご意見も概ね好評でありました。

試験運行の結果も踏まえ、今後、マイクロバスを導入していく考えであり、内装では電動補助ステップや車椅子収容スペースを設置し、車椅子収容スペースには普段は折畳み椅子を2席設置できるようにします。

マイクロバスの購入に際しては新しい環境基準を満たしたものを導入していきたいと考えています。

(構成員)

西ルートをマイクロバスで試験運行したというが、ショートボディで運行したのか。

(会長)

そのとおりですが、レンタカーを使用したために補助ステップまではついて

いませんでした。

(構成員)

一番多く乗る西ルートで定員の半分しか乗らないのなら、東ルートでもショートボディでよいと思われる。

(構成員)

試験運行されたときの運転手の意見はどうであったか。

(事務局)

運転手だけでなく、補助員を同乗させて対向車等の状況も含めて調べてありますので、今後まとめていきたいと考えています。

(構成員)

マイクロバスでの運行時に利用者が多いが、無料で乗車できることが知れ渡っていたのか。

(事務局)

ちょうど、どうだん亭でひなまつりもあったので、それも一因かもしれませんが、詳しい理由まではわかりません。ひなまつりのせいか、霞ヶ丘町での対向車も多かったようです。

(4) 平成 19 年度公共交通試験運行等について

(事務局)

19 年度は本格運行に向けた事務を執っていきたいと考えています。

本格運行のイメージを端的に言いますと、現在の 4 つのルートを 4 台の車両で運行し、そのうち西ルートと東ルートに市で購入したマイクロバスを導入し、車両には公募で決められたデザインが施され愛称も決められているというイメージであります。

懇話会につきましては、本格運行へ移行するまでに 2 回ほど開催できればと思っています。

新たな組織として地域公共交通会議の開催も必要により行っていく予定です。

こうしたことに伴う 19 年度の予算につきましては、総額で 6,600 万円であります。

(構成員)

年内に本格運行は必ず実施されるのか。延期になってしまわないか。

(事務局)

必ず本格運行を実施します。

(会長)

懇話会は19年度に2回開催しますが、本格運行に移行した際に終了するということですね。

(構成員)

地域公共交通会議とはどういうものか。

(事務局)

地域のニーズに即した乗合事業のサービス形態、運賃等を市が運輸の関係者や国、県、事業者、道路管理者、警察などの方々に集まっていただき、協議をしていく場であります。今後は仕組みの根幹に関わるものは地域公共交通会議に移して議論をしていきたいと考えています。懇話会では利用促進に関わる分野でご協力いただけるとありがたいと考えています。

(構成員)

今後のことで、本格運行の前にルートの見直し、微調整、朝夕などの運行時刻の改正はどのような形で反映されるのかが分かりにくい。

(事務局)

年内に行う本格運行は、車両が新たに導入された状態で本格運行を迎えます。基本的には今の状況で車両を変えて移行していきます。懇話会では愛称、デザインの関係で1回集まっていただき、その後、本格運行に移行する前にもう1回集まっていただこうと考えています。懇話会は試験運行に関わることまでが所掌事務になっていますので、本格運行になった後に一区切りをつけさせていただくよう考えております。その後、利用促進ということでご意見をいただいたり、PRをしていくための組織展開をしていきたいと思っています。一方、地域公共交通会議では、尾張旭市として今後どうしていくかという骨格となる部分を協議していきます。本格運行になったからこれで終わりというということにはなりません。

(構成員)

予算概要の車両購入費を見ると、東ルートと西ルートの両方で車両を購入するのか。この車両は市の所有になるのか。残りの南ルートと南西ルートはどうなるのか。

(事務局)

東ルートと西ルートの両方で車両が購入できる予算です。残りの2ルートにつきましては、19年度は従来どおりの運行で考えています。また、車両の新環境基準が9月1日から適用されますので、その基準をクリアした車両を購入していきます。

(会長)

そういった情報もどんどん皆様にお知らせして行ってください。

(構成員)

19年度も依然として見直し時期だと思うが、この予定だと車両が変わるだけになる。乗り継ぎや障害者料金などいろいろあるが、そういうものの見直しや運行の変化はあり得るのか。

(事務局)

今の時点では本格運行へ移行するのが最初の目的であり、乗りこぼしを無くしていこうというのが我々の目指しているところであります。市に根付いていく基礎を固め、追加タクシーの発生を無くすことを大前提と考えています。ただし、本格運行時には障害者本人も無料でと考えています。

(構成員)

6月から8月までの間に開催予定の懇話会では、車両のデザインの関係で開催されると思われるが、その次の懇話会の議題は予測がつかない。料金、乗り継ぎ、ダイヤの組替えなどが議題となるのか。今分かれば聞いておきたいが。

(事務局)

今の状況から車両を変えるのが本格運行であります。9月から12月の間に開催予定の懇話会ではその状況を報告し、その他の課題は本格運行実施以降に検討をしていきたいと考えています。そういうことで、障害者料金の無料化は懇話会で報告しますが、乗り継ぎの関係は本格運行実施以降に考えていきたいと思っています。現時点で、その先のあり方についての考えは持っていません。

(会長)

平成20年度以降についてはまだわからないということでしたが、引続き皆様からも市にはいろいろと意見を言っていただきたいと思います。

(構成員)

市がやることには調整相手がたくさんあるから大変だとは思いますが、早く本格運行が立ち上がってくれないと後が進まない。

(事務局)

3月議会で本格運行をいつにするのかという質問がありましたが、車両の新環境基準の関係もあって年末の近い時期になるだろうと答弁しております。全ての需要をこのバスで満たすことは難しいため、懇話会でも議論されましたように、バス停に歩いていける人を利用者の対象として想定しております。タクシーチケットは80歳からもらえることになっていますが、年齢のみを基準とすることがよいのかという意見もあり、今後こういった検討も必要であると考えております。

(会長)

行政効率も考えて、見直しをしっかりとっていくという考えですね。

(構成員)

タクシーチケットの大きな制度を変更する際には、次のステップとしてバスの運行頻度も加えて考えていかなければならない。

(構成員)

地域公共交通会議と懇話会はどのあたりから一本化し、いつまで並存するのか。

(事務局) 根幹作りについては地域公共交通会議、利用促進については懇話会後の新しい組織でと考えています。

(構成員)

結局は2つの組織になるということか。地域公共交通会議は官的で、懇話会の次なる組織は市民的なものと考えればよいのか。

(事務局)

完全に官ばかり、民ばかりということではありません。今までは懇話会で仕

組みの骨格や料金、市民意見、利用者意見など幅広くやってきましたので、その棲み分けを後から新しく組織される地域公共交通会議とで行っていきましようという感じであります。

（構成員）

両組織で重なる部分はないのか。

（事務局）

多少重なる部分はあります。ただし、まだ地域公共交通会議について国でもきちんと決まっていない部分もありますので、我々もはっきりしない部分があります。

（顧問）

法令でメンバー構成までは決まっていますが、地域公共交通会議の中身をどこまでやりましょうというのはまだであり、運輸局にて地域公共交通会議をうまく遂行していけるかを現在検討している最中であります。警察や道路管理者、事業者、国や県などいろいろ関係する人が入って、その中で合意されたものについては、ほぼ許可になるくらいの権限を持つものが地域公共交通会議になります。もちろん市民にも入ってもらいますので、その中で合意をとっていただくことになります。具体的に議事事項が何だとは決まっていないので、地域で独自に進めていけばよいとは思いますが、もう少し整理が必要ではあります。

（構成員）

試験運行を本格運行にするという視点であったが、これからは地域福祉の視点が大きくなってくる。採算性はまず無理なので、その差額は地域のためにやるんだという視点を持って、ぜひ、この中に福祉の視点を入れてもらいたい。

（構成員）

当初は元気なお年寄りを対象にということでスタートしたが、変えていかなければならない。

（顧問）

地域公共交通会議の議題にはそういったことも入ってくると思います。福祉有償運送も含め、人の移動全てをひっくるめて議論をしていくことになると思います。

(5) その他

(事務局)

名鉄バスの森林公園ゴルフ場～藤が丘の路線で、4月1日よりダイヤ改正が予定されており、1日片道13便あったものが9便に減便されます。非常に経営状態も厳しいとのことですので、民営のバスもご利用いただきますようお願いいたします。

懇話会の構成員については、新年度になり役員の交代等に変更になれるかたもいらっしゃると思われるので、所定の手続のため、また改めてこちらから確認をさせていただきます。

4月29日の日曜日に第3回あさひ健康フェスタが開催されますが、尾張旭市公共交通も「外へ出かけたくなるまちづくり」の一翼を担っておりますので、この日は啓発も兼ねて臨時運行します。

健康フェスタではあさひースマイルウォーキングも開催しますので、申し添えさせていただきます。

(構成員)

健康フェスタでは血液さらさらチェックや元気まる測定も行っておりますので、保健福祉センターの4階まで上がっていただきたいと思います。